

平成 30 年度第 1 回遠軽地域まちづくり会議録

■日 時 平成 30 年 10 月 22 日（月）18 時 30 分～20 時 30 分

■場 所 遠軽町福祉センター 2 階 2 号会議室

■出 席 宮崎会長、竹之内委員、村上委員、藤田委員、平野委員、生出委員

■欠 席 大平副委員長、斉藤晴委員、斉藤ひ委員

■町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹

■会議内容

1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長

2 会長あいさつ

（宮崎会長）

3 平成 30 年度遠軽地域まちづくり会議の進め方について

資料 1 により中原主幹説明。質疑等なし。

4 平成 29 年度まちづくり会議の振り返り

資料 2-1、資料 2-2 により中原主幹説明。質疑等なし。

5 平成 29 年度まちづくり会議の提言に係る町の考え方

資料 3（遠軽地域の提言部分）により中原主幹から説明。

（宮崎会長）遠軽地域からの提言について説明があったので、皆さんのご意見を伺う。コミュニティラジオ局についてどうか。

（平野委員）生田原の有線放送設備が（壊れて）そのままになっているという状況というのがあった。そうしたものを活用できないか。

（中原主幹）時刻を知らせる鐘がなるようなものなので、街頭放送みたいな形で使えるかわからない。

（竹之内委員）6 時と 4 時と 9 時にチャイムが流れている。

（宮崎会長）アナウンスはないのか。

（竹之内委員）アナウンスはない。

（平野委員）ここ（遠軽地域商店街）にも（放送設備が）あった。

（竹之内委員）今、切っているがある。郵便局のところまで。

（宮崎会長）放送に使えるのか。

（竹之内委員）線のつながっているところまでは使える。

（中原主幹）昔は「まるせん」さんで持っていた。広告料をもらって広告も流していた。

（宮崎会長）今はどのように使っているのか。

（竹之内委員）千人踊りの時しか使っていない。

（宮崎会長）商工会議所にあるのか。

（竹之内委員）そう。

(中原主幹) エリアは限られるし、家では聞けないが放送はできる。

(平野委員) この間の地震があったときに、揺れは知らずに朝起きて停電になっていることを知った。情報をどこからもらうかというラジオリオで情報を得て状況を知った。そういうときに大通りまで出れば情報がわかるよとか。

(竹之内委員) 今回はここにも情報が入ってこなかった。

(平野委員) 例えばそういうときに情報を伝える手段があるといい。他の地域にもそうしたものはない。

(中原主幹) 発電機も備えておかないと、停電の時にはラジオも放送できない。

(平野委員) 役場としては今回の停電の時はどうだったか。

(佐藤課長) 色々検証している。今回のような大規模停電のときにどう皆さんに広報するかというのが課題で、広報車も遠軽地域には2台ぐらいしかなくて、それで有効にできるのか。携帯型のマイクとスピーカーがあれば、スピーカーが付いてない車でも使えるという反省もある。インターネットでも情報発信ができなくなってしまった。じゃあSNSやクラウドで周知という手もあるのではないかという声もある。そのへんも検討しているところ。皆さんにまんべんなく行き渡るかという課題がある。若い人ならSNSを使って周知ができるが、高齢者の方にどう伝えるか。今回、断水になるというデマも出たが、打ち消すことができなかった。そうしたことも課題。検証しながら対策を練りたい。

(宮崎会長) ラジオだったら電波だから発信できる。次に保育士・介護士の待遇改善についてはどうか。子育てということだが、この間のニュースで子どもの保育料だとか全部無料にして、住宅の補助まで出すという町があった。

(中原主幹) 上士幌町は、ふるさと納税でかなり入って来ているので。

(佐藤課長) それを財源にしてやっている。

(中原主幹) 移住者もかなり増えている。

(宮崎会長) あれだけやれば「やっている」という感じがする。

(平野委員) 例えば住宅だと、遠軽に親の家があって、子どもたちはこちらにいないという空き家が結構ある。そういうものを町に寄附してもらい、移住者の支援に上手く活用できないか。

(中原主幹) うちの係長が先日東京の青梅の方(奥多摩)で実際にそのような不動産の寄附を受け付けている事例を視察して来ている。

(平野委員) 青梅の方では子供を産めるところがないという話を聞いたことがある。そういうので人口を増やして。利用する人がいなかったら、病院でも何でもお医者さんも来ない。来てください、来てくださいではなく、自分たちが先にそういう体制を作っていく、利用する。お店もそうだし。食べる場所がないというが、そこに毎日、経営できるだけの人が来るのかという風にやる側は考える。それであれば、住宅を公営住宅ではなく、空き家を譲って住んでもらって、というように柔軟にやれないのか。働いている人

だったら街の中で住みたいとか、施設のそばに住みたいとかあると思う。結構空き家はたくさんある。

(中原主幹) 実際そういった取組が行われて、移住者を受け入れているところはある。町では、お試し暮らし住宅というのを社名淵と丸瀬布でやっていたが、インターネットも買物も厳しい。都会の人向けではあるが、街なかでというニーズもある。そういったことに活用するというところもあるかもしれない。

(平野委員) 町の広報とかに空き家募集とか書いたりすると、結構来ると思う。

(宮崎会長) 空き家は、福祉の方でグループホームだとかに結構使われている。

(竹之内委員) 保育士・介護士は別としても保育に関する意見は他の地域にも共通で出ている。今回はこういう観点から実現できるような形で。ここは4地域考えていることは同じだと感じた。どの手法でというのは、行政が実行できるかどうかというのが問題なので、もっと深掘りしてってもらい実現可能なものにしてほしい。そうやっていくと、絶対的に人手が足りなくなってくると思うので、退職した保育士がまだまだいる。復帰してくれないのは単価の安さだと思う。サービスが充実するためには民間の幼稚園のようところが大事になってくる。

(宮崎会長) 3つめの合同運動会のことについてはどうか。

(竹之内委員) 4地域が連携するのに簡単なこととして出した。言われてみると本当に難しいんだと思う。

(藤田委員) 難しいからこそなんとかして、一つで取り組めるものがほしい。具体的には浮かばないが・・・。

(平野委員) 各地域持ち回りで企画するとか。

(竹之内委員) 芸能発表でも各地域で別々にやっている。なかなか一つにするのは難しい。

(宮崎会長) 町民運動会となると、ちょっと難しいかも知れない。限ったものであれば。健康づくり推進委員会でやっているものは、4地域から200人ぐらい集まる。町のホームページ見ていると、遠軽地区より他の地域の方が色んなことをやっている。それでは、ほかの地区への町の回答もありますので、そちらの説明をお願いします。

資料3 (遠軽地域以外の提言部分) により中原主幹から説明。

(宮崎会長) 生田原地域についての町の考え方についていがかか。

(村上委員) XC スキー大会のことについて、本体のコースにつながらなくても生田原地域内でやっては。

(宮崎会長) 今回答ということにならないと思うので、意見ということで。

(平野委員) クロカンも大分落ち込んでいる。

(中原主幹) 一時は3千5百人ぐらいの参加があったが、今は千2百人ぐらいになっている。一度、コースが通れなくなって休止し、復活したが以前のレベルには達していない。クロカンの競技人口自体減っているのだから、遠軽の大会だけでなく、他の地域の大会も減っている。

(宮崎会長) 次に丸瀬布についてはいかがか。

(平野委員) 道の駅利用者が6割減ということだが、結構停まっている。

(中原主幹) これまで末端だったので、特別だったと考えれば、変わっていないのかもしれない。

(平野委員) マウレ山荘は、完全に地元以外の方に向けて変えた。そういうのが必要なのかも知れない。逆に整備しすぎるのもどうかという。

(宮崎会長) マウレ山荘は日帰り温泉みたいなものを別に作るのか。

(佐藤課長) そう。

(平野委員) 先日、いこいの森に行ってきたが、せっかく新しく直したのに地震の関係でキャンセルになって、違うところに行っちゃったと言っていた。

(宮崎会長) 夏休みに行った時も例年に比べて少なかった。

(平野委員) 風評被害、発信力が必要。

(宮崎会長) 白滝はいかがか。(特に出ず。)

6 次期まちづくり会議への申し送り事項について

(宮崎会長) 遠軽の提言は夢のあるものだと思っているが、難しいものばかりのようである。ぜひ、これを進めてほしいというものはあるか。

(藤田委員) ラジオ局の開設は、難しいけれども絶対無理だというわけではないと思う。一番町が手を貸してくれそうなのはラジオ。

(平野委員) 災害の対応ともつなげながら、もうちょっと進めていけたら。

(宮崎会長) 皆さん、イメージとしてどこからやっていったらいいか考えは。

(平野委員) お金をどこから持ってきたらいいか・・・。

(中原主幹) ラジオ局に関しては、お金というよりはマンパワーが課題。

(藤田委員) 北見でラジオやっている方から名刺もらったが、どうやっているのかわからない。

(中原主幹) 北見は市からお金が出ているかはわからないが、色々なパターンがあるようだ。

(藤田委員) 実際にやっているところにお話を聞きに行くといいと思う。

(平野委員) 遠軽ではどこまでカバーできるか。

(中原主幹) 出力が限られているので、遠軽町全体をカバーするとすると、電波を発信する送信所は少なくとも4つは要と思う。

(平野委員) 名寄も文化センターで放送しながらイベントの受付などもやっている。

(竹之内委員) 確かにどこも行政ではない。伊達なども。

(中原主幹) ニセコが結構行政の出資が多いようだ。ニセコリゾート観光協会というところでやっているが、出資者はニセコ町とニセコ町民となっている。留萌とか滝川とか成功例といわれるようなところは、民間の熱意のある人が会社を作って、一定程度広告料などで行政からのお金は入っているとは思いますが。広島県の三原市では、防災の計画を立

ててコミュニティ FM を整備しようということで商工会議所に委託して可能性調査を実施している。

(竹之内委員) そういう意味では、道の駅が防災の機能を持たせていくということなので、そこに絡めていくとか。

(平野委員) 確かにそういう主になるところを作るのは、いいかもしれない。

(竹之内委員) 町民センターができると確かにそういうこともいいのかもしれない。

(村上委員) こういうジャンルの仕事は、やらされている感ではだめ。やりたい人が生まれるかどうか。

(藤田委員) 遠軽中学校でラジオをやると聞いている。

(中原主幹) コミュニティ FM となると、法律で規制がかかるが、もっと小さな範囲で規制のかからないミニ FM というやり方がある。出力がなんぼだったら OK だというのは微妙なところがあるが、ミニ FM で実験的にやってからコミュニティ FM に発展させていったという例もある。

(竹之内委員) 次回以降もどんどん。

(藤田委員) あきらめないで詳しい人たちを呼んで聞くなどして。

(竹之内委員) 子育てというのは、全体に共通しているので、サービス受ける側と提供する側をうまくやっていかななくてはならない。

(平野委員) 運動会については、各地域にはこういう意識はないのか。

(中原主幹) 各地域では人口少ないということもあり、小学校と保育所一緒に運動会をやっている。それをどこかに移動してというのが、喜ばれるかどうかというところ。

(佐藤課長) 一体感の醸成という意味では、確かにそういう声はある。各々団体ではやっているところもある。

(平野委員) この会議だって、全体会議もあるが、その地域、その地域で固まっている。ということは他の地域との交流が取れない。それはもったいない。

(中原主幹) 全体会議も話し合いをするには人数が多すぎて難しいとやってみて感じた。

(平野委員) 本当はその場で知り合って、情報交換できるといい。

(竹之内委員) 地域ごとにやるとどうしても地域柄が出る。

(中原主幹) でも、身近なところから話をしないと盛り上がらないということもある。

(宮崎会長) 今の議論をまとめて申し送り事項としたいと思う。

7 その他

全体会議の発表者は、宮崎会長とする。

8 閉会

佐藤企画課長

20 : 30 終了